

教第70号議案

運動会・体育大会の組体操について

「安全な体育的活動のあり方検討会」の報告を受けて、組体操の今後の方針について提案する。

令和元年12月20日提出

第1回安全な体育的活動のあり方検討会（11月14日（木））

【議事概要】

- ・二人組の事故、身体を上を持ち上げる技に事故が多い。
- ・組体操にやりがいや意義を感じる。このまま無くなることを残念がる児童生徒もいると聞く。
- ・補助倒立は指導要領に例示あり、体育の授業でも取り組むが、組体操で行う場合は、（全員が揃う）完成形を目指した指導をしたり、砂埃が舞う野外で裸足で行うといった環境面の違いがあるのではないかと。
- ・最近の子供の状況（心身の未発達さ、運動能力の低下、体力差）を考えると、一律の指導で組体操をさせることは難しい。幼少期からの体力的な部分を育てる必要がある。
- ・人間おこし、人間タワー等、危ないと感じることがある。見栄えを強調し過ぎである。
- ・多忙化の中、指導経験の伝承が年々難しくなっている。教員への負担が大きい。→現場の多忙感や子供たちが達成感や一体感を得ることができるプログラム例等を次回で報告。
- ・組体操には教材としての歴史があるが、組体操自体の意義や効果について再評価が必要。 等

第2回安全な体育的活動のあり方検討会（12月12日（木））

【議事概要】

- ・安全確保の取り組みを強化した秋以降、教員の事務作業、会議や研修に係る時間が増えており、大きな負担となっている。
- ・実施計画書の提出が実質的な安全対策に役立っているのか検証が必要。
- ・小規模校等では補助にあたる教員確保が難しいという深刻な状況である。
- ・組体操は頭部、頸部の事故率が高く、深刻な事故に繋がる恐れがある中、教員の心理的な負担も大きい。
- ・組体操の全廃については極論であるという週刊誌等の論評がある。安全さえ確保できれば有意義なものであり、規制に従うだけでは、教師のリスクマネジメントは育たないとも指摘されている。
- ・学校におけるカリキュラムマネジメントが重要視される中、教育内容をPDCAサイクルに乗せることが必要。学校の主体性が求められる。
- ・不安を抱えて指導すると子供も不安になる。子供に向き合っているのか。
- ・子供を取り巻く状況が変化する一方、伝統を重んじることに固執していないか。「やめる勇気」も含めて校内で議論できているのか。
- ・学校からは組体操のあり方を全市で統一してほしいという意見と学校裁量に委ねるべきだという意見がある。
- ・組体操に固有の意義はあるものの、一体感、達成感という意味では、「集団行動」等の代替プログラムもある。 等

第2回 安全な体育的活動のあり方検討会

令和元年12月12日（木）10時00分～正午 総合教育センター 701号室

会 次 第

1. 開会あいさつ

教育次長 住谷 照雄

2. 出席者紹介

3. アンケートの結果報告

教科指導課 担当課長 古角 芳忠

傍聴者退出

4. 意見交換

5. 事務連絡

6. 閉会あいさつ

教科指導課 課長 浦川 稔弘

※「3. アンケート結果の報告」終了後、退室をお願いします。

安全な体育的活動のあり方に関する検討会 委員名簿

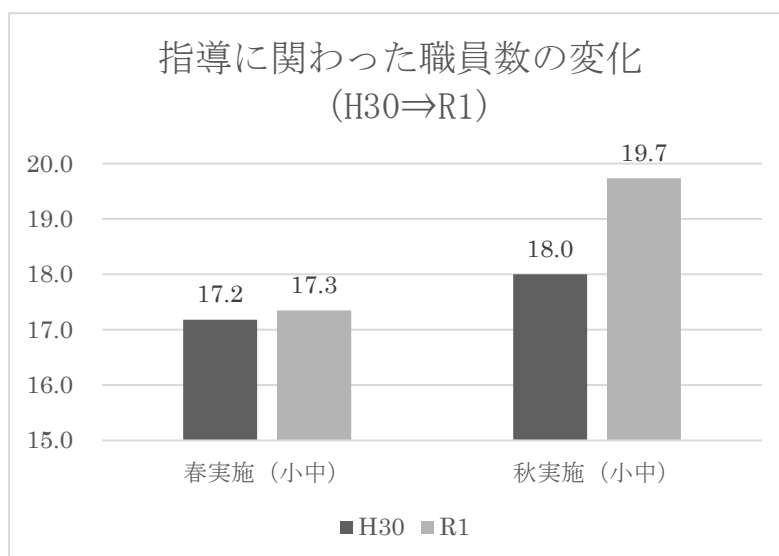
(五十音順・敬称略)

名 前	役 職	区 分
田中 聡	神戸親和女子大学発達教育学部教授	学識経験者
長澤 憲保	兵庫教育大学大学院学校教育研究科教授	学識経験者
野間 勝彦	神戸市立中学校PTA連合会会長	保護者
播谷 昌彦	神戸市小学校教育研究会体育部長・乙木小校長	教員
細川 愛美	兵庫大学看護学部講師	医療関係
前川 志のぶ	神戸市中学校研研究会保健体育部長・歌敷山中校長	教員
増田 隆志	神戸市立小学校PTA連合会会長	保護者
山口 泰雄	神戸大学人間発達環境学研究科名誉教授 流通科学大学人間社会学部特任教授	学識経験者
山下 准史	神戸市教育委員会事務局学校教育部教科指導担当部長	教育行政関係

今年度の運動会・体育大会に関するアンケート報告概要 ～教員の負担に関する調べ～

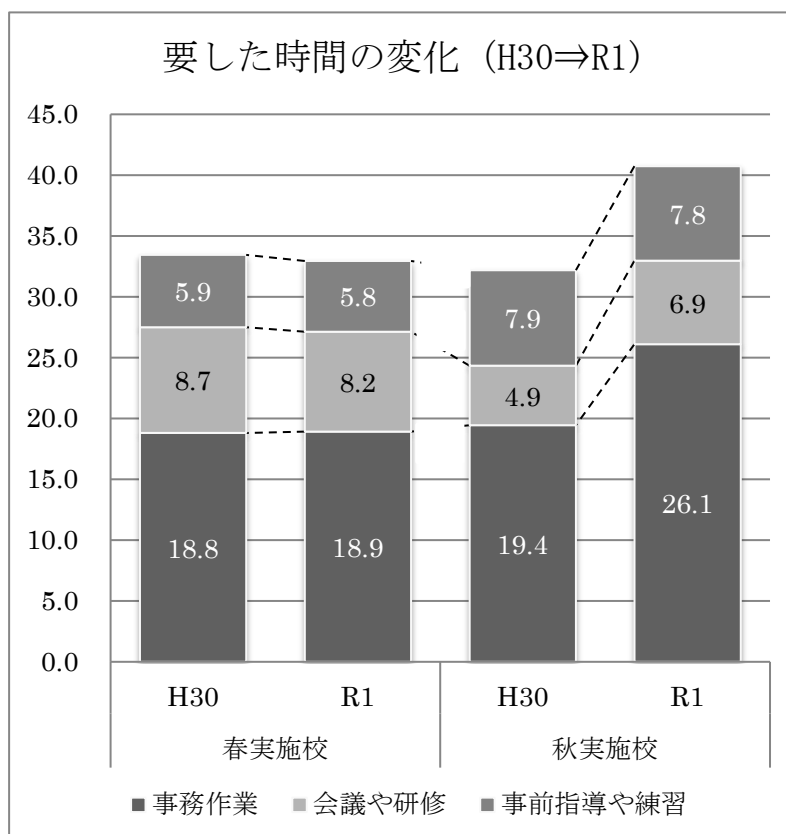
1. 実施（組体操）校調査

1) 人数



○ 春実施・秋実施とも指導に関わる職員数は増加しているが、秋の増加が顕著である。

2) 時間

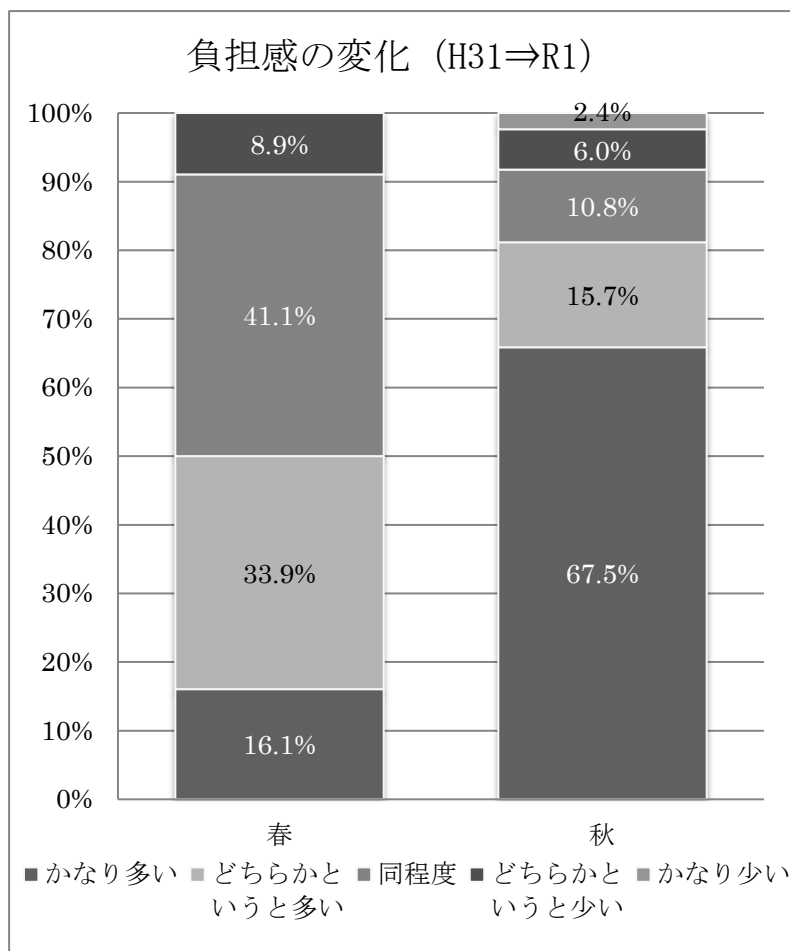


○ 春実施・秋実施とも「事前指導や練習」における時間増は見られなかった。練習期間に変化がない中、これ以上の時間増が見込めない状況であると思われる。

○ 春実施校においては時間的な負担増は見られなかった。

○ 秋実施では「事務作業（同 35%増）」「会議や研修（前年比 41%増）」において時間増が見られた。

3) 負担感



- 負担感について春実施において「かなり多い」「どちらかというとい多い」の回答合計は50%に達していたが、秋実施では80%を越えている。
- 秋実施では「かなり多い」の回答率が60%を越え（7割近く）となっている。

4) 理由

○負担と感じなかった理由 (21件)

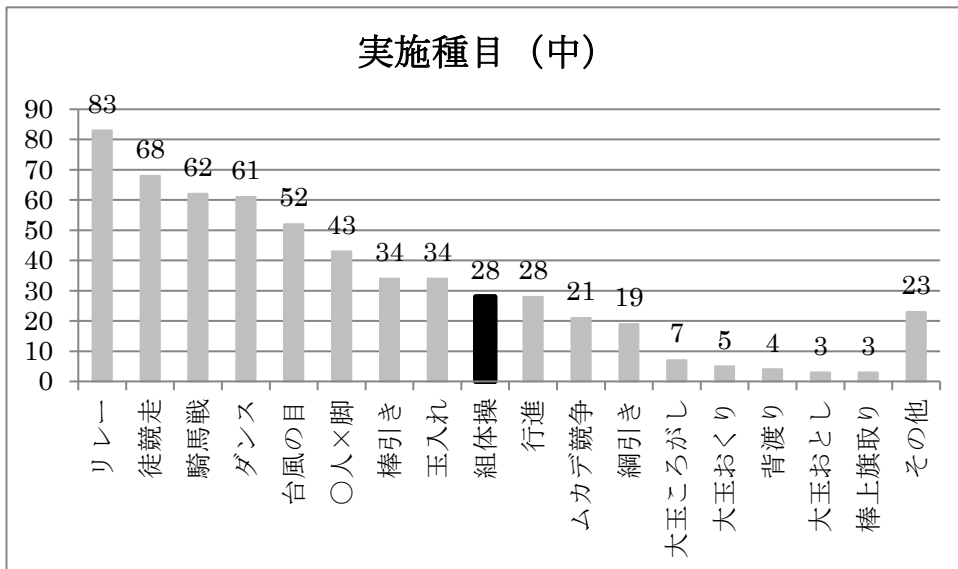
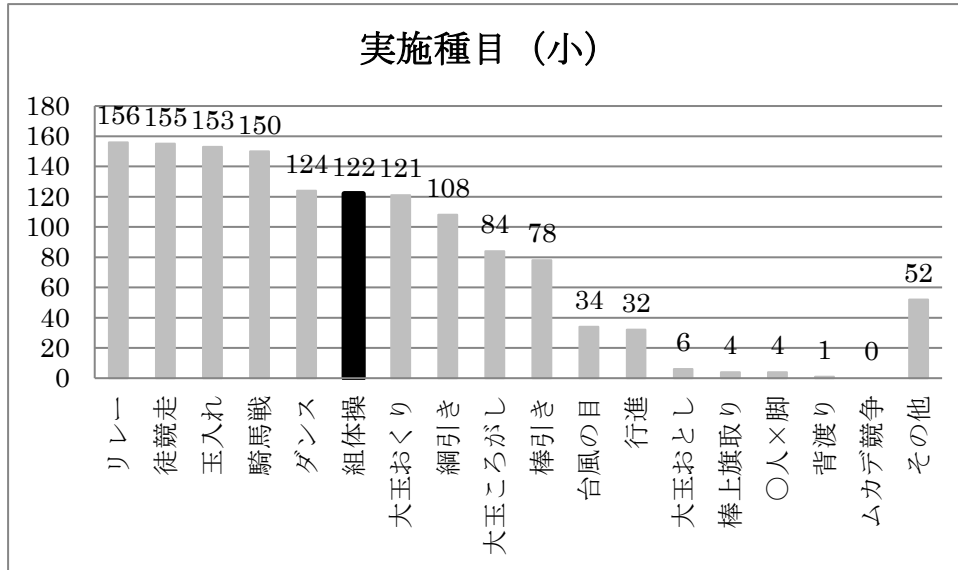
- ・春実施のため秋のような報告書がなく、昨年度と同様に行うことができた。
- ・技の難易度を落とし、演技時間も大幅に短縮したことで身体的精神的負担を減らすことができた。

▲負担と感じた理由 (123件)

- ・安全管理の共通理解や、完成度を高めるための会議、資料作成の時間が多かった。
- ・書類提出の多さに驚いた。書類作成の期間が短く、現場は混乱した。
- ・技の制限がある中で、発表できる内容を考えなければならなかったから。
- ・練習計画の順守が求められ、補充練習をすることができなかった。
- ・補助に係る教員確保が難しく、その結果、曲に合わせて通すことができたのは前日のみだった。
- ・絶対に怪我をさせられないので、全職員で取り組んだが、精神的負担もかなりあった（多数）。
- ・新聞報道等によって、絶対に事故を起こしてはならないというプレッシャーを感じるなど、常に追い込まれている感覚で指導せざるを得なかった。

2. 全学校調査

1) 実施したプログラム



2) 開催時期のメリットやデメリット

○春開催のメリット (220件)

- ・余裕をもって2学期を迎えられる。
- ・年度始めの学級、学年等集団作りができる。
- ・暑かったり、雨が多かったりする時期を避けて練習ができる。

▲春開催のデメリット (228件)

- ・子供の実態を把握した計画等の準備や練習にあてる期間が短い。
- ・急に気温が上がると、暑さに耐える体が出来上がっていない。
- ・入学して間もない1年生の指導が困難。

○秋開催のメリット (218件)

- ・練習計画も余裕をもって立てられ、計画的に指導に臨める。
- ・集団として高まってきている時期で、共にやりきるという経験ができる。
- ・長い2学期における学校生活のメリハリ、意欲付けにつながる。

▲秋開催のデメリット（227件）

- ・熱中症や台風など、天候が不安定。
- ・運動会、音楽会、修学旅行等大きな学校行事が続き、忙しい。

○隔年開催のメリット（184件）

- ・行事の時間数が減り、授業時間数が確保しやすい。
- ・教師の負担が減り、働き方改革につながる。

▲隔年開催のデメリット（217件）

- ・最高学年での演技ができない子が出るので、理解を得ることが難しい。
- ・隔年で教育課程の編成が変わってしまい、指導の継続性が確保できない。

○半日開催のメリット（223件）

- ・熱中症の危険を減らすことができる。
- ・保護者がお弁当を準備する必要がなくなる。
- ・低学年が最後まで全員ががんばることができる。

▲半日開催のデメリット（219件）

- ・大規模校だと出場機会が減り、一人一人の達成感も下がる。
- ・種目ごとに制限時間等が設けられ、慌しくなる。
- ・球技大会や陸上競技大会の延長のような行事になってしまう。